



研究の現場から

令和五年度「道科研」研究活動方針 多様化する社会に 通底する価値を問う

道徳科学研究所 所長

犬飼 孝夫

激変する国際情勢や地球環境の中で、社会の価値観もまた大きく変わりつつあります。私たちは、多様な価値観が交錯し混雑とする中で、人としていかに生き、いかに働き、どのような家庭や社会を築いていくのか。また、どのような国家をめざし、その安全をいかに守り、地球環境を保全しつつ、異なる思想・信仰を持つ人々といかに調和し共生していけばよいのかなど、さまざまな課題に向き合い、対応していくことが求められています。

「重点三分野」を中心に研究

こうした情勢を受け、昨年度、道徳科学研究所(以下、「道科研」)では、「多様化する社会に通底する価値を問う——社会的課題の解決と安心・平和・幸福の増進に向けて」という共通テーマ(研究活動の指針)を策定しました。

今年度も引き続き、この共通テーマに基づき、以下の「重点三分野」を中心に研究活動を展開します。

- (1) 新たな時代の倫理道徳のあり方を探究し、人類社会における諸課題の道徳的解決に資する研究
- (2) 家庭・学校・社会における道徳の教育・学習・実践の充実に資する研究
- (3) 廣池千九郎の事績と思想の研究、および最高道徳論とその教育の深化発展に資する研究

令和三年度にプロジェクト体制へと改編して以来、さまざまな専門性を有する研究者の協働による相乗効果が生まれ、より活発な研究活動が展開されるようになりました。その成果の一端として、昨年(2021)の十月と十二月にオンラインで開催した「道徳科学研究フォーラム」の内容をブックレット『モラロジーにおける教育者とは』および『現代社

会問題に対するモラロジーのアプローチ」にまとめ、分かりやすい学習資料として皆様と共有できたことをうれしく思います。

創立者が後世に託した研究課題の探究

今年度は、「『道徳科学の論文』第三緒言」(新版『道徳科学の論文』①二七〜一三九頁)の第二条で示されている三十四事項の「引き続き研究を必要とする諸項目」の検討をさらに進めます。

創立者・廣池千九郎が後世に託した研究課題を現代の最先端の科学的知見でしっかりと受け止め、「時代を超えて通底する道徳原理」の探究を進めるとともに、多様化が進む現代における「社会的課題の道徳的解決」と「人類の安心・平和・幸福の増進」に向けて、本質的かつ実証的な方向性を打ち出し、財団の教育活動・社会活動の充実に研究的視点から貢献していきたいと思えます。

今年度も、オンラインで参加できる「研究会」「コロキアム」「研究フォーラム」等を開催し、研究の成果を発信してまいりますので、それぞれの関心に合わせてご参加いただければ幸いです。引き続き、道科研の活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。